

やってみました! ワーカースお話し会!



2年に一度、全国からワーカース・コレクティブが集まって、最新の情報と意見交換をおこなう場である「ワーカース・コレクティブ全国会議」が、2017年10月に札幌でおこなわれました。関西からの参加者のうち、私(中村)は、「社会的連帯経済における中間支援組織の役割」をテーマにした第2分科会に参加したのですが(関西W.Co連合会も中間支援組織のひとつです)、その報告と話題提起に加えて、ワーカース共済の学習会を兼ねた「ワーカースお話し会」を、12/2(土)にエスコープ大阪本部にて開きました。

なお、これに先立って、私の所属組織である「福祉ワーカース ほーぷ」で開いた報告会では、「メリット云々ではなく、ワーカースが単独ではできないことを実現するために、連合会をどう活用するか」「新たに加わったワーカーに対して、個々の業務は各ワーカースで研修するが、『ワーカース』に関する部分は連合会として研修をおこなうことが望ましい」「単体のワーカースにはお金がないので、生協等の外部団体が作る施設(ハード)の中に入って、ソフト面は自分たちが担う、という分担はできるだろう」というような考えが示されました。

そして、お話し会の当日は、「私たちが、働き方をどう選んでいったか。ワーカースでの働き方は、単純な雇い・雇われる働き方(雇用労働)とは違う」「ワーカースとは、パートナーシップで働く場を作る仕組み。だから、話し合い続けることが大事」「どこがその人に響くかは人によるが、私たちは、他の民間の事業所とは違うことを伝える必要がある」「まずは、生活クラブ関西6生協との連携が第一歩なのでは?」といった意見が出されました。会の終わり頃、「私たちは、ようやく自分たちの課題や、やらなきゃいけないことが明らかになってきたのかもしれない」という発言もあり、連合会として、またワーカース(という生き方?)を続けるメンバーとして、足元と未来をともに見るような気持ちになりました。

さて、これから私たちは、どういう選択をしていくでしょうか。関西圏におけるワーカース・コレクティブの事業と活動は、関東圏と比べると小さなものです。けれども、自ら変化し、実現できることはいろいろとあるはずなので、皆さんと頭と時間をひねりながら、新しい1年を歩んでいきたいと思えます。

福祉ワーカース ほーぷ 中村 義哉

ワーカース共済情報!

ワーカース共済は、W.Coの労働保障として創りだした共済です

「ワーカース・コレクティブ共済(株)」の12月度の報告では、「ワーカース・コレクティブ所得保障共済」の申請承認件数は20件、給付金額は743,210円です。

仕事中にケガをした、病気になって寝込んでしまった。そんな時はワーカース共済に申請してくださいね。

インフルエンザの季節です。予防手段は「うがい」「手洗い」ですが、もしかかってしまい仕事を休んだ場合は休業補償が受けられる場合があります。詳しくは問い合わせを!

*関西W.Co連合会のワーカース共済加入は
8ワーカース、62名です。(2017年12月現在)

「お話し会」の後、「ワーカース・コレクティブ共済(株)」代表、 島田純子さんの話を聞きました

労災に加入しているから、社会保険に加入しているから、有給休暇があるから、ワーク数が少ないからなど、ワーカース共済に加入しない理由はいくつもあります。

島田さんから、公的制度和一般の所得補償保険とワーカース・コレクティブ所得保障共済の違いをお聞きしました。ワーカース共済は、既存の制度とは別にワーカースという働き方に沿った保障をワーカース自ら生み出したこと。ワーカースという働き方をベースに考えられた保障であること。全国のワーカースのみなさんとお互いさまの助け合いができることはうれしいことですね。

ワーカース共済に加入している者がワーカースとして働いている意義を伝えていき、加入者を増やし、「みんなで支える共済制度」を守らなければなりません。これからも、もっとワーカース共済のアピールをしていきたいと思えます。

W.Coかぐや姫 秦中 智美

「ワーカース・コレクティブ 全国会議 in 北海道」 第3分科会報告

「ワーカースで働き続けるための保障を考える」
～厚生年金と健康保険加入に関する課題～

ワーカースは、事業拡大と営利を目的とする企業とは一線を画し、地域で必要とされるサービスやモノを提供する非営利事業をおこなっています。

雇用関係のない働き方であることもあって、働く人の社会保障には苦慮しています。社会的な意義を持つ事業であっても働き続けることのできる場としての環境整備が必至となり、ワーカースでありながら、雇用を前提とした社会保障への加入を実施した団体の「苦肉の策」や課題などの報告がありました。

社会保険について基調講演された片桐由喜さんは、小樽の子育て支援ワーカース「びすけっと」を利用されたことをきっかけにワーカース・コレクティブを身近に感じておられ、まだまだワーカースの働き方に合った法制度や社会保障の成立には時間がかかるだろうが、ワーカース・コレクティブをもっと知ってもらうために社会に向けた発信をしていくことが大事だと話されました。

経営も労働も担う私たちが、自分たちの事業の本質を忘れずに続けていくために必要なものは何かを改めて考える機会でした。

コーヒー焙煎ワーカース 珈琲工房まめ福
白江 祐子

ワーカース・コレクティブとは、地域に暮らす人たちが、生活者の視点から地域に必要な「もの」や「サービス」を事業化し、自分たちで出資し、経営し、労働をも担う働き方をいいます。



エスコープまつり 2017

～食べて、見て、感じて、わかちあおう!～

11月26日(日)、堺市産業振興センターにおいて、「エスコープまつり」が開催されました。今回は「食」だけでなく、エスコープが取り組んでいる「福祉」「環境」をアピールするコーナーもあり、若い世代から熟年世代まで多くの方でにぎわっていました。

わが関西W.Co連合会は、『カフェブース』の担当。「まめ福」さんのコーヒーとお菓子のセットは、「おいしい」と大好評。スタッフ一同、目の回るような忙しさでした。アートバルーンを配りながらおこなったワーカーズのアピールでは、チラシを受け取り、興味を持って話

を聞いてくださった方もおられました。中の1人が、「ワーカーズで働くってことは、人と出会うってことなんですね」とおっしゃったのが印象に残りました。

W.Coキッチンよりあい 辻 久美子



南河内地域(富田林市、羽曳野市、藤井寺市、堺市美原区、南河内郡太子町・河南町)の約880名の組合員にエスコープ大阪の消費材をお届けして、23年になります。10数年前ある高齢の組合員より、ゆつくりと話を聞きたいと言われ、エスコープの協力を得て、「ゆつくりコース」を作りました。注文書やノートの記入、お届けした消費材を冷蔵庫に入れたり、びんのふたを開けたり、調理法や解凍法を説明したり、個々に対応しています。通常コースは、50〜60人くらいに配達していますが、ただ配達しているだけではなく、長く利用してもらえるように、安否確認も含め、コミュニケーションを大事に配達しています。



関西 W.Co 連合会の
ワーカーズを
紹介します

W.Co
あすか
＜配達業務委託＞

プロフィール

設立●1994年10月
所在地●エスコープ大阪本部
メンバー数●17名
(うち1名休職中)



キリトリ

●今後も関西 W.Co 連合会や W.Co ネットワークジャパン(WNJ)の情報を
お送りしたいので、下欄に記入の上、FAX もしくはメールでご連絡ください

【宛先】 FAX : 072-341-0022 メール : kansaiwco@gmail.com

ワーカーズ名 :

業種 :

電話 :

メールアドレス :

11月、12月は
忙しかった!

東京の孫の七五三、エスコープまつり、全国会議報告、組合員交流会等、立て続けにイベントがあり、その上毎週末、1才の孫のお泊まりと公私共に忙しい年の瀬でした。

私の回りで働くワーカーズの人は皆、仕事、習い事、家事などを楽しくこなしている人が多く、こちらまで元気になります。仕事上でもプライベートでも、遠慮なく意見やぐちを言い合えるのは、ワーカーズの醍醐味だと思います。

2018年も70才を筆頭に、元気に配達したいと思います。

W.Coあすか 山田